

# Q&A

## Q 1 : 次亜塩素酸水とは何ですか？

A 1 : 「除菌・消臭用の電解水」の優れた部分を徹底的に研究して作られた新しいタイプの中性電解水です。

## Q 2 : 「除菌・消臭」の主成分はなんですか？

A 2 食塩水( $\text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$ )などの電気分解で生成される「次亜塩素酸( $\text{HOCl}$ )」が主成分です。

## Q 3 : 「次亜塩素酸」とはなんですか？

A 3 : 塩素の中で最も活性が高い(効果が強い)とされています。

ちなみに塩素系消毒剤の代表格である「次亜塩素酸ナトリウム水溶液」の液中には「次亜塩素酸イオン」という形態が多く含まれますが、大腸菌やポリオウイルスの不活化試験では「次亜塩素酸イオン」より「次亜塩素酸」の方が約100倍の効果がある事が分かっています。

## Q 4 : 他にも「微酸性電解水」「中性電解水」といったものがありますが違うのですか？

A 4 : 他の「微酸性電解水」「中性電解水」は原料に薬剤(塩酸等)を用いることでpHを調整しています。しかしこの生成方法では「原料(薬剤)にかかるコストが高い」「微酸性・中性でありながら液中の塩化物イオン濃度が高く錆びやすい(金属によっては強酸性電解水より錆びやすいものもある)」といった欠点が出てきます。次亜塩素酸水は食塩水のみを原料とし、特殊な電気分解方式を用いてpHを中性に調整することでこの欠点を克服しています。

## Q 5 : 強酸性電解水とどこが違うのですか？

A 5 : 「除菌・消臭」の目的は同じです。ただ次亜塩素酸水のpHは中性領域であることから(強酸性電解水はpH2.7以下の酸性領域)以下4つの特徴を持っています。

1. 金属腐食が少ない… 食塩が含まれる分(濃度0.003%)、水道水より若干錆びやすい程度です。またステンレス製品はほとんど問題ありません。
2. 塩素臭が少ない… 主成分である「次亜塩素酸」は酸性領域ではガス化しやすく塩素臭が強いのですが、中性領域ではほとんどガス化しない為、塩素臭が少ないです。
3. 保存期間が長い… 上記同様、「次亜塩素酸」がほとんどガス化せずに液中に安定して溶け込んでいるため、長期間の保存が可能です。ちなみに透明のペットボトルに常温密閉状態で約3ヵ月、冷暗所なら1年以上効果を維持できます。(強酸性電解水は、遮光容器に入れ冷暗所に保存しても、効果を維持できるのは約1週間とされています)
4. 刺激が少ない… 粘膜等、デリケートな部分についてもタンパク変性が発生し難い点を評価いただいています。

## ◎使用上の留意点

### Q 6 : 欠点はありますか？

A 6 : 有機物と接触すると分解して食塩水に戻ってしまう為、残留性は期待できません。しかし「残留しない」→「人体・環境への影響が少ない」といった長所にもなっています。速乾性はないのでアルコール系消毒剤のように「手を拭く必要がない」といった簡易さはありません。

### Q 7 : 使用時に注意する点は何ですか？

A 7 : 有機物との接触により分解し易いので対象物の汚れは事前に落とす、若しくは次亜塩素酸水の流水下で洗い流しながらご使用ください。また原料が食塩水ですので金属製品への長時間の接触は避けること、接触後は水道水で洗浄されることをお勧めします。後、薬事は未承認ですので臨床では医師のご判断と患者さんへのインフォームドコンセントのもとご使用ください。

### Q 8 : 手荒れは発生しますか？

A 8 : 刺激は非常に少ないです。原料が食塩水のみ、且つ分解しやすいことと、pHが中性で手のpHに影響を与え難いことがその理由です。ただし塩素過敏感症の方や、頻回な手洗いにて脱脂作用が発生した場合はこの限りではありません。もし発生した場合は専門の医師にご相談ください。

### Q 9 : 手洗いの方法は？

A 9 : 次亜塩素酸水の流水下でスクラブしていただくことが効果的です。電解水での手指洗浄については、2分以上の洗浄が望ましいが、適切な方法(徹底したスクラブ)で行えば10秒~20秒で効果が期待できるとの文献があります。また血液や唾液が付着している場合は石鹸等を用いて汚れを落としてからご使用ください。